

東北アジア地域における 国際秩序の構築と中日韓の協力

呉 懐 中

1. 歴史と現状
2. 東北アジア地域における国際秩序の変容の原動力
3. 東北アジア地域の国際秩序の未来と中日韓協力

地域の安全保障問題に関する議論は、理性的で合理主義的な特徴を持つ国際関係論の方法によって行われることが多い。しかし、国際関係論の視点のみで「東北アジア学」を考えるのでは不十分である。リアリズム的な方法論による単純な議論を克服するために、本論では「東北アジア地域における国際秩序の変容」という歴史的・文化的含意を持つ概念を導入し、長期的なタイムスパンから超域的な視点をもって考察を試みたい。

歴史上、東北アジア地域は、欧米地域によくみられる近代国民国家を主体とするモデルとは異なる独特の秩序体系を持っていた。近年、中国の全面的な発展、国際社会における日本の政治的地位の向上、アメリカの覇権的地位の動揺、六カ国会議の制度化などの新しい事象が、東北アジア地域の国際秩序の変容をもたらしてきた。これらのさまざまな要因が多層的に織り交ざる中、中日韓三国の交流と協力は、同地域における新しい秩序の形成に貢献する重要な推進力となるだろう。

1. 歴史と現状

東北アジア地域の秩序に関する歴史的遺産を整理することは、同地域の秩序を再構築するうえできわめて重要である。歴史上、東北アジア地域の秩序関係には三つのモデルが見られる。すなわち、中国主導の「朝貢」モデル、アメリカ主導の「門戸開放」モデル、日本主導の「東アジア植民」モデルである。第二次世界大戦後、東北アジア地域の多くの国々は植民地からの独立を果たしたが、その後、冷戦構造の成立によって二つの陣営に分かれた。このことによって、この地域では長い期間にわたって敵対または緊張の状態が続いた。各国は政治制度や、経済発展の水準と発展モデル、また歴史の記憶と歴史認識などの面において、多くの相違を見せている。また、近代以来、同地域においては、いくつかの大国が同時に存在しているうえに域外の大国も強い影響力を及ぼしており、国家間関係は錯綜

して複雑な様相を呈している。それゆえに、東北アジア地域の諸国間では、地理的な属性によるアイデンティティの醸成が難しく、地域の安全保障にかかわる協力関係もなかなか成立しにくい状況が続いている。

現在、東北アジア地域は世界の政治的・経済的な中心の一つであり、力関係が最も激しく変化している地域でもある。また、経済的に最も活力のある地域であると同時に、最も大きな社会的変化を見せている地域でもある。この地域には、あらゆる形の経済体制と政治体制が集中しており、さまざまな矛盾や衝突を抱えている。冷戦後においても、地域間の衝突が多発しており、中国の台湾問題、日本の北方領土問題、朝鮮半島問題などいずれも紛争の可能性を潜在的に孕んでいる。このような複雑な状況から、これまでの東北アジア地域の秩序構築に関する構想はいずれも明確なビジョンを有しておらず、地域協力も制度的なネットワークを欠いている。それゆえに、地域の安全保障問題は、相変わらず国家間協力関係の成立を阻む原因の一つとなっている。東北アジア地域は、従来の勢力均衡秩序から共同体秩序に向かっていく重要な十字路口に差し掛かっていると見えよう。

2. 東北アジア地域における国際秩序の変容の原動力

現在、東北アジア地域の各国はグローバル化とローカル化という二つの大きな流れに積極的に対応しているが、同地域における国際秩序の行方は、これらの国々がどのような国家間関係を築いているかにかかっていると見えよう。その中で、東北アジア経済の一体化及びその副次効果、中国の全面的な発展、アメリカの対外戦略の調整、国際社会における日本の政治的地位の向上、北朝鮮の核問題をめぐる多国間の対立と協調などの要素は、東北アジア地域の安全秩序を変革させる主な原動力である。とりわけ中国の全面的な発展は、一つの重要要因であると言えよう。

(1) 東北アジア経済一体化の効果

東北アジア経済の一体化は、これまでに三つの発展段階を経てきた。1997年のアジア金融危機後、貿易や投資、金融などの分野での協力関係が飛躍的に発展した。2001年に中国はWTO加盟を果たして自由貿易区域の設立を提唱し、東北アジア経済の一体化の発展に新たなエネルギーを注入した。地域経済の一体化は東北アジア地域の安定と繁栄の基礎となり、その副次効果によって政治的、社会的、文化的分野での協力関係もさらなる発展を遂げて、各種の制度的枠組みが次々と成立していった。規範と制度の成立は、地域内の権力関係の不均衡による不安定を解消し、「安全保障のジレンマ」の拡大を防いだ。これと同時に、東北アジア共同体の理念は、地域協力関係のビジョンとして人々に受け入れられつつある。

(2) 中国の全面的な発展

中国経済は凄まじい勢いで成長しており、世界経済の発展を牽引するエンジンとなっている。中国は積極的に国際社会に参入し建設的な役割を果たしていくのだという意思が、東北アジアの国々に徐々に認識されつつある。国際社会における中国の台頭は、グローバル化の流れと国際秩序の転換とほぼ同じ時期に起こったことであり、中国の発展は世界情勢に影響を与える決定的な要素の一つである。中国は、東北アジア地域のすべての国と協力関係を結んでおり、地域経済の一体化及び国際秩序の再構築に建設的な役割を果たしている。

(3) アメリカの強力な影響

アメリカは東北アジアのすべての地域に介入している。90年代以来、アメリカは戦略的な措置を取り、自国を軸とする安全保障体系を見直した。これによって、東北アジアの国際秩序におけるアメリカの安全保障の枠組みが持続し、その戦略的な利益が確保された。今後も東北アジア地域におけるアメリカの強力な影響は続くだろう。一方、アメリカは東北アジア地域の盟主ではないので、あくまでも東北アジア地域の大国（とりわけ中国とロシア）との均衡を考慮し、バランスの取れた国家間関係を東北アジア地域の平和の主な目標として、東北アジア地域の国々との関係の再構築を求めるだろう。

(4) 国際政治における日本の台頭

世界第二位の経済大国になってから、日本の国家アイデンティティに変化が見られた。80年代から、日本は「普通の国家」であることを戦略的な目標に据え、その経済力に相応する政治大国の地位を求め始めるようになった。世界情勢及び東北アジア地域において重要な役割を果たすことによって、東北アジア共同体の理念及び枠組みを構築するにあたってのリーダーシップを求め、また、同地域での主導権を握ることを熱望している。

(5) 六カ国会議の制度化

東北アジア地域の各国の政治的ゲームは、政治面での協議体制の設立をめぐる繰り返り広げられてきたが、この協議体制には、政治的な紛争が起こった際に協調しそれを緩和する機能を果たすことが期待される。六カ国会議(断絶の時期もあり不安定な体制ではあるが)を契機に、東北アジア全体の政治的協調体制が緩やかなテンポで形作られつつある。北朝鮮核問題の長期化によって、東北アジア各国の政治的知恵と協力関係のありようが試されている。北朝鮮核問題の解決までは長い道のりがあるが、六カ国会議の成果から見れば、多国間協議は東北アジアの安定を保ち信頼し合う関係を構築する上で最良の方策と言える。

3. 東北アジア地域の国際秩序の未来と中日韓協力

(1) 中日韓三カ国の協力は、東北アジア地域の国際秩序の再構築にとってポジティブな要素である。

1999年に中日韓三カ国はASEAN主導のもとで協力関係を結び、その後、協力の分野が少しずつ拡大し発展してきた。その成立から10年あまり経ったが、この間、この協力関係は三カ国に多大な経済的利益をもたらしたのみならず、三カ国の間に存在していた葛藤を緩和させる役割も果たし、東北アジアさらには東アジアの地域協力を促進する要因の一つとなっている。もちろん、現在の中日韓三カ国の協力関係はまだ強化する余地があり、その協力関係の枠組みも制度化や組織化などの面から見直さなければならない点が多くある。東北アジア地域における三カ国の中心的地位とその経済的实力を考えると、三カ国の協力関係のさらなる発展は将来、東北アジア地域さらには東アジア地域の国々の協力関係の成立を促していくだろう。その先には、東アジア共同体のビジョンが実現されると思われる。

(2) 東北アジア地域の集合的アイデンティティと協力秩序——未来のビジョン

中日韓三カ国の緊密な協力関係から、21世紀初頭の東北アジア地域の政治を取り巻く大きな変化が起こったことがわかる。これらの変化は、近代化および市場経済、民主政治、市民社会、個人の価値の認知と追求を含む。またそれに加えて、共通の利益やそのための枠組みの制度化が東北アジア各国の協力関係の発展のために主導的な要素となるとの認識が各国の間で広まった。これらのことは、東北アジア地域の集合的アイデンティティを醸成するうえで重要な機会を提供した。地域としてのアイデンティティと協力秩序の構築は、今後の東北アジア地域の国際関係が進む方向であり、またその特徴ともなるだろう。

キーワード 北東アジア秩序 歴史と現状 進化の原動力 中国の台頭 中日韓の協力

(WU Huaizhong)